

高須芳次郎 たかすけ よしじろう 評論家、水戸學研究者、文學博士。明治十二年四月十一日大阪生れ、昭和二十二年二月一日歿（八〇—一九四〇）。筆名はひげひ、梅溪生、梅溪迂人、高須梅溪等。明治二十年中村吉古藏等と浪華青年文學會を興し、機關誌『よしの草』を創刊。翌年上京し、二十二年新聲社入社。二十八年早稲田大學文學部英文科卒。のち雜誌主幹、新聞記者、日本大學教授など。なほ大正十一年迄著作し高須梅溪名を以て使ふ。

著書『彩雲』（合著・新聲記者編、明治二十四年四月、二十五日新聲社）、『青年觀』（明治二十四年八月十日新聲社）、『青年叢話・下の巻』（合著・新聲社編、明治二十五年五月十五日新聲社）、『水滸傳物語』全二冊（編、上巻・明治二十六年八月、下巻・七月二十日富士山房「通俗世界文學」）、『中學作文要訣』（明治二十九年一月七日博報堂書店）、ロングフエロー作『乙女の操』（譯、明治二十九年二月十八日新潮社）、『わが散文詩』（明治二十九年六月一日福岡書店）、『わらう雲』（合著・大河桂月・笹川高風編、明治四十一年二月五日高有論堂）、『滑稽趣味の研究』（明治四十四年二月十一日實業之友本社）、『金言』對時東曲名婦の面影』（明治四十四年五月二十日博文館「家庭百科全書」）、『婦人日常座右銘』（編、明治四十四年十一月十五日博文館「家庭百科全書」）、レインガード著



旅順籠城劍と戀（一名白露戰役回想錄）（加島以月共譯、明治四十五年一月一日啓成社）、『平家の人々』（明治四十五年四月二十日岡村盛花堂）、

ウラジミル、セメヨノヲ著『大海戰殉國記』（譯、明治四十五年五月

- 七日明治出版社)、
『明治代表人物』(大正二年六月十一日博文館)、
『近松の人々』(大正二年一月)、『八日岡村盛花堂』、『源氏の人々』
(大正二年九月五日實業之日本社)、
『西鶴の人々』(大正四年七月十二日岡村書店)、
『白蓮聖人及其殉教者』(大正六年八月二十五日新潮社)、
『小品文集』、『答空』(大正六年十月十五日實業之日本社)、
『らん』、『革命夜話』(大正八年一月)、『二十五日天祐社』、
『美の廢墟』、『起ちて』(大正九年一月)、『二日岡村書店』、
『最新文章辭典』(大正九年一月)、『二十日天祐社』、
『明治五十二年史話』(大正九年九月五日日本評論社出版部)、
『近代文藝史論』(大正十年五月二十五日日本評論社出版部)、
『江戸時代饑饉期』(大正十一年七月八日早稻田大學出版部)、『國民の日本史』、
『江戸時代爛熟期』(大正十一年八月八日早稻田大學出版部)、『國民の日本史』、
『日本近世文學』、『講』(大正十二年一月十日新潮社)、『思想・文藝講話叢書』、
再刊・昭和十一年四月十日「新潮文庫」)、
『日本現代文學』、『講』(大正十二年一月二十八日新潮社)、『思想・文藝講話叢書』、
『東洋思想』、『講』(大正十四年四月十八日新潮社)、『思想・文藝講話叢書』、
再刊・昭和十一年(二月)二十八日「新潮文庫」)、
『御家騒動の研究』(合著・國史講習會編)、『大正十四年五月十日雄山閣』、
『東洋學藝文庫』全二冊(一)、『孔子から孟子へ』(大正十五年四月一日)、『二』、『老子から莊子へ』(七月十六日新潮社)、
『日本思想』、『講』(昭和二年二月二十日新潮社)、『思想・文藝講話叢書』、
再刊・八年九月二十八日「新潮文庫」)、
『日本名著解題』(昭和二年八月)、『二十日誠文堂』、『大日本百科全集』、
『古代・中世の本文學』、『講』(昭和五年二月)、『二十八日新潮社』、『思想

- ・文藝講話叢書」、再刊『古代中世日本文學』一講』(二十一年十一月) 十五頁「新潮文庫」(、『さらん大革命時代』(昭和五年六月十日 日本學術普及會)、『爛熟期・頽廢期の江戸文學』(昭和六年二月) 一十七頁明治書院)、『日本文學講座・第十二卷一明治時代・下編』(合著、昭和七年四月) 一、二頁新潮社)、『非博時の日本』(如何のクキ 乎) (昭和七年七月十八日大坂屋敷書店)、『明治^{大正}文學講話』(昭和八年九月) 一、二頁新潮社)、『明治文學史論』(昭和九年七月) 一、二頁日本評論社)、『日本精神と文明』(合著、昭和九年十月) 二頁祖國會出版部「祖國會叢書」(、『日本名文鑑賞』(第四卷「明治前期」昭和十一年四月九日、「昭和時代」八月八日厚生閣)、『水戸學派の尊皇と經綸』(昭和十一年七月) 一、二頁雄山閣)、『幽谷 正志齋 東湖』(昭和十一年一月) 二頁北海道出版社「日本教育家文庫」(、『名文鑑賞讀本』(編著、『明治前期』昭和十一年四月十四日、「明治後期」六月八日、「大正時代」九月十六日厚生閣)、隨筆『赤穂浪士』(高須梅溪著、昭和十一年四月) 一、二頁モリス)、『文章作法問答』(昭和十一年八月十五日厚生閣)、『日用ニ爲語新辭典』(久保得一共著、昭和十二年九月五日新潮社)、『乃木將軍詩歌物語』(昭和十二年九月十一日新潮社、再刊・十四年八月二十日「新潮文庫」)、『明治入止の文學』(昭和十二年十一月十日日本大學出版部「日本大學藝術科講義文藝」)、『文章作法問答(實用版)』(昭和十二年十一月二十八日厚生閣書店)、『支那文學十五講』(昭和十四年五月) 一頁新潮社「新潮文庫」(、『日本二千六百年史物語』(昭和十四年十一月) 二頁新潮社)、『大日本史の現はれた尊皇精神』(昭和十五年八月

- 月二十八日誠文堂新光社）、『水戸學の心髓と語の』(昭和十七年四月二十日井田書店)、『水戸學徒列傳—水戸學入門』(昭和十七年四月二十日誠文堂新光社)、『註解・臣民の道』(註解、久松義一解題、志田延義) 昭和十七年八月十五日朝日新聞社)、『日本科學の建設者』(昭和十七年八月十五日富士書店)、頼山陽著『日本文化史論』(原名) 新策) 『(譯註、昭和十六年九月二十日井田書店)、『皇清藝術論』(合著・永野正人編、昭和十六年十月五日日本大學藝術科學會)、『藤田東湖傳』(昭和十六年十月二十五日誠文堂新光社)、『徳川光圀』(昭和十六年十一月十八日新潮社「新傳記叢書」)、『日本はどんな國か』(昭和十七年二月六日新潮社「新日本少年少女文庫」)、『官職大詔讀解』(合著、昭和十七年二月二十日朝日新聞社)、『維新留學錄』(昭和十七年四月十五日大阪屋號書店)、『故中村吉藏博士追憶集』(合著、昭和十七年五月一日小林政治協刊)、『日本轉換期の偉人』(昭和十七年五月十五日歐文社)、『愛國詩文一千八百廿年』(昭和十七年七月十七日非凡閣)、『日本の人生觀』(合著・大島豐滿、昭和十七年十月十五日又書堂)、『水戸學と青年』(昭和十七年十一月二日潮文閣)、『皇清と語の』(昭和十七年十一月五日「見書房」)、『孔子思想と講話』(昭和十七年十一月五日新潮社「新潮文庫」)、『學徒宣言』(合著・白井喜久介編、昭和十八年一月二十日京都・白井書房)、『少國民の國體讀本』(昭和十八年二月十日フタタシ書院成光館)、『勤皇烈士詩歌物語』(小島徳彌共著、昭和十八年二月二十日創進社)、『光園と齊昭』(昭和十八年二月二十日潮文閣)、『人と高山樗牛』(昭和十八年四月十五日廣成社)、『水戸學講話』(昭和十八年四月二十

『今日の問題』、『國民教育叢書』(一)、『女性日本史物語』(昭和十八年五月)、二十四日日本青年館『青少年文庫』(一)、『水戸學精神』(昭和十八年六月)、十日新潮社『新潮文庫』(一)、『大御心を仰ぐ』(昭和十八年六月)、二十日松宮書店)、『吉野勤の人生』(昭和十八年七月)、十五日潮文閣)、『勤皇烈志』(學)』(合著・東京新聞社編、昭和十八年八月)、二十一日建設社)、『藤田東湖の勤皇評選』(昭和十八年九月十五日大阪・駿々堂)、『皇國世界史』(合著・勤勞者教育中央會編、昭和十八年九月)、二十日自雲書店『新國民文化叢書』(一)、『平田篤胤翁百年祭記念論文集』(合著・秋田縣社瀨高神社奉讀會編、昭和十八年十一月)、一日富山房)、『東洋思想考語』(昭和十八年十一月)、五日井田書店)、『日本精神と青年』(昭和十九年一月)、一日潮文閣)、『老莊思想讀本』(昭和十九年二月)、二十日大阪・葛城書店)等。